

**消** こんにちは！  
費生活相談室です 87  
消費生活相談室 ☎47-1106 FAX44-7957

「契約」とは  
私たちは日常、たくさんの「契約」をして生活しています。商品やサービスを購入したいと思っただけで、相手がそれを承諾したときに契約は成立します。たとえばスーパーで買い物したり、バスに乗ったり、クレジットカードを利用したりすることもすべて「契約」になるのです。

お互いの意思の合致があれば、契約は口頭でも成立します。契約書を作らなくても契約は成立します。契約書は、内容を後で確認し、保存しておくために作成される証拠書類です。

❖「契約は守らなくてはならない」  
契約が成立すると、お互いが契約の際に取り決めた内容を守る義務が生じます。原則として一方的にキヤ

ンセルしたり、契約内容を変更したりはできません。

❖契約の解消  
だまされたり、脅されたりして契約をした場合、それが自分の意思に基づかないものであれば、契約に拘束されることはありません。契約自体に問題があれば、取り消しができます。

また、契約が問題なく成立しても、訪問販売による契約など一定の契約については、クーリング・オフ制度により無条件解除ができます。

❖アドバイス  
❖必要のない契約ははっきり断りましょう。  
❖結んだ契約に納得がいかない場合はご相談ください。

☒相談受付時間 毎週月～金曜日  
午前9時～正午・午後1時～4時

**み** んなで拓く人権文化 73  
地域振興課人権政策室 ☎47-1102

「人権知識」を「人権感覚」に  
人権学習や人権教育の取り組みによって、多くの人が「差別することは間違っている」「お互いに人権を尊重しよう」ということはよく知っている時代になっています。ところが、せっかく学習した「人権意識」も「感覚」として身に付いていないと、ちよつとした言動が人を傷つけたり、苦しめたりすることになります。たとえば、「いじめやセクハラは、される人にも原因がある」と言っただけで済んでしまったり、いじめやセクハラ被害の上に「自分が弱いから仕方ないことだ」と被害者自身が自分を追いつめてしまうことになりかねません。これは最初の被害に加えて二重に被害者を傷つけてしまうことになり得ます。このように何気なく、悪気なく、つい口にてしてしまう言動はよくあることだ

と思いますが、「人権意識」が「感覚」として身に付いていたらこのような言動は無くなるのではないのでしょうか。

人権学習の結果、私たちの頭の中にはたくさんの人権意識（知識）が、ちょうど教科書のように詰まっています。人権問題に直面したとき、その教科書のページをめくらなくても、人権感覚としてとっさに身体や心が反応するようになれば素晴らしいですね。

自分にとっても、いつ降りかかってくるかも知れない人権侵害。講演会や学習会で得た「人権意識」について、知識だけではなく「人権は、私にとっても人にとつてもこのように大切なものだ」という生活実感や人権感覚を身につけましょう。「人権感覚」を身につけるために、人権侵害や偏見、差別について正しく知り、もっともつと話しあい、学ぶことが大切です。

(人権教育推進員 安倍昌彦)

今月のサロンコンサート

「ピアノソロコンサート」  
月とき・ところ 8月21日(金)午後7時30分～8時40分  
文化ホール(入場無料)  
月出演 松本哲平さん  
米子市出身で、現在は東京の大学で勉強されている松本哲平さん。JAZZのテイストを取り入れ、自作の曲からさまざまな曲までピアノソロで演奏。若さはしけるステージをお届けします。

(問合せ先 生涯学習課文化体育係 ☎47-1093)



お忘れなく！  
市県民税 2 期  
国民健康保険税 2 期  
後期高齢者医療保険料 2 期  
の納期限は  
8月31日(月)です。  
※便利な口座振替をご利用ください。

図書館に行こう！

(市民図書館 ☎47-1099)

『ケータイ中毒 第1～3巻』 著者 渋谷 浩井 哲也  
『おなあちゃん』 著者 多田 乃なおこ  
『ともこちゃん銀メダル』 著者 細川 佳代子・文 東郷 聖美・絵

『エレンの宇宙』 著者 羽馬 有紗  
『私とマリオ・ジャコメッリ 辺見庸』 著者 辺見 庸  
『ケータイ中毒』 著者 渋谷 浩井 哲也

「原爆の日」によせて  
原爆投下・それは敗戦への絶望的な戦いを続けていく日本にとって、余りにも大きな犠牲と代償を伴ったものでした。そして戦後六十四年の今なお、被爆者は県内で五百名、境港市内で五十名を越え、苦しく悲しい過去と健康不良を抱えて過ごされています。

また、境港市内の戦争の跡は年ごとに失せてしまい、戦争体験を語り継ぐ方も高齢となり、風化が加速しています。

八月は鎮魂と平和への希求を各地で確認していますが、「終戦の日」や「原爆の日」は親子の間で語り継ぐ大事な時でもあると思います。

上道町の足立祐先生は広島原爆の犠牲者の一人です。広島文理科大学倫理学科卒業を目前にして広島駅付近で被爆、逝かれました。卒業謝恩会の幹事役・学生代表として恩師を広島駅頭に出迎えに行った際に不幸にも遭遇されました。

足立祐先生の学生生活は軍需工場の勤労奉仕を指導的立場でのぞまれながらの研学でした。



戦争遺品：足立祐先生が被爆時に着用していた上着

「極めて自然そのままで、それでいて精神的には印象的で、いわば東洋の教育者の風格を持つ器であった」と恩師山本空外師は「追悼三十年忘」に記しています。

製糸工場を営む実家の経営は苦しかったため師範学校の二部へ進学しました。学究への志は強く、小中学校の教師で生活の糧を得ながら広島文理科大学で教育者の道を専心してゆきます。

恩師西晋一郎から戴いた掛軸に孔子の「学而不厭教而不倦」(自ら学んで飽くことなく、人に教えて屈しない) があります。先生は学問修業と自己の進むべき道をこの掛軸に求め、床の間にもいつも掛けて置こうにと奥様の秀子さんも教師でした。これらの書簡からは、夫婦の絆はもとより夫を師と仰ぎ、教育者として研さんする姿がそこにあります。

祐先生の遺志は引き継がれ、秀子先生は県内初の女性小学校長となり、教育に一生を捧げました。(市史編さん室 小瀬浩)